

発行所

札幌市北区北15条西7丁目  
北大医学部同窓会  
TEL&FAX (011) 706-5007  
E-mail: furate@med.hokudai.ac.jp  
http://hokudai-med-dousou.com

編集人 田中 伸哉  
発行人 浅香 正博

# 北大医学部同窓会新聞



## CONTENTS

- (1) ・副会長再任のご挨拶……………佐久間 一郎  
・副会長再任のご挨拶……………吉岡 充弘
- (2) ・医学部創立100周年記念事業の成功に向けて - 百年記念館の概要 - ……………吉岡 充弘  
・北海道大学医学部創立100周年記念事業募金へのご協力のお願い
- (3) ・新世紀の医学に向けて(33) 佐藤 典宏
- (4) ・海外で活躍する同窓生……小島 和暢  
・MD-PhDコースについて…笹森 暲  
・第57回北海道大学医学展について……………ゴー ケンウィー
- (5) ・フラテ105号発行のお知らせ  
・告知板  
・事務局からお知らせ  
・2019年北海道大学医学部、北海道大学病院、北海道大学医学部同窓会合同新年会および北海道大学医学部創立100周年記念事業後援会総会のご案内
- (6) ・新刊書紹介  
・北海道医学会からのお知らせ  
・同窓会費の納入は口座振替で  
・同窓会費納入のお願い  
・過年度会費が2年を超える  
・会費未納者と会員名簿の発送について  
・ご逝去者  
・編集後記

## 「北海道大学医学部百年記念館 建設予想図」



### 副会長再任のご挨拶

さくま いちろう  
佐久間 一郎 (55期)

この度、浅香正博会長のご推挙をいただき、学外よりの副会長として再任を仰せつかりました。来年百周年を迎えるこの時期に、北大医学部同窓会の副会長の大役を再度お受けすることとなり、身の引き締まる思いです。

私は祖父が1期生、父が28期生であり、祖父が医学部に入学してから来年が百周年となります。また、私は55期生ですが、来年が卒後40周年となりますので、来年には是非、落成した北海道医学部同窓会会館で、そこにできる予定である、同期会も開催可能な同窓会員用のファシリティーで、55期卒後40周年記念同期会を開催出来ればと思っております。

私が医学部に在籍していた際に、浅香会長が委員長で「北海道大学病院研修医制度」が策定され、私は研修医募集を担当させていただきました。ところが研修医制度開始以降、北大医学部卒業生の在籍先が不明となる場合が多くなり、同窓会名簿にも空欄の多い期が増え、同窓会費収入も減少致しました。しかし4年前に浅香正博先生の御英断により、医学部入学時から医学部同窓会に入会するように規約が改正され、現在は上記の懸案が解消されつつあります。

一方医学部では女子学生が増え、そ

の結果、出産・育児・家事を抱える女性医師が、どのようにキャリアを積んでいくかが、喫緊の課題であると思われれます。私は母、妻、娘が医師であり、時代時代の女性医師の状況を垣間見ておりました。現在娘は3児の母ですが、保育所や育児援助システムをフルに活用し、東京の大学病院ではフルタイムで勤務しております。

さらに、働き方改革が喧伝される昨今、医師の就労時間・就労形態も改革を迫られており、例えば娘の大学病院では、この7月から皮膚科医の娘は当直がなくなり、宅直になったとのこと。各病院の事情もあるでしょうが、今までは当然だった医師の当直後の継続日勤も、改革を迫られ、さらに超勤時間が問題視され、各種会議等の勤務時間内開催も多くなっております。

最後に、来年の北大医学部百周年記念事業として、同窓会館の建設が着工しており、総額十億円の寄付が必要となっております。是非、皆様の御協力をお願い致したく存じます。私の55期も卒後40周年であり、浅香会長をお支えすべく微力ながら尽力することをお誓い申し上げ、副会長再任のご挨拶とさせていただきます。



### 副会長再任のご挨拶

#### -医学部創立100周年に向けて-

よし おか みつ ひろ  
吉岡 充弘 (60期)

このたび、浅香同窓会会長、幹事会および評議員会の承認を頂き、再び副会長の任を務めさせていただくことになりました。医学部長職との兼任となりますが、その立場を最大限に利用し、医学部および同窓会一丸となり、医学部創立100周年記念事業を成功させたいと思っております。

これまで浅香会長の命のもと、喫緊の課題であった財政の立て直しが、在学生の同窓会への入会という大胆な舵取りにより、なされました。この決断は、母校愛を同窓会との関わりの中から涵養し、醸成することができればと考えたからです。同窓会はこれまで、医学部学友会に対し、医学展、懇話会および卒業祝賀会などの経費を補助し、陰ながら支援してきました。今後は「主体的な在学生への関わり」とともに「会員相互の親睦」のためのさらなる行動計画を実施しなければなりません。

まずは北海道大学医学部百年記念館の竣工を目指したいと思います。外観・外部のみならず内部・内装等の本設計もでき上がり、降雪前には基礎部分の工事を終了させる予定です。同窓会会員の同期会の催しや小規模の学会・研究会等、さらには室内楽コンサートに

も対応できる記念館となります。今後100年を耐え抜く建物として、また北大メインストリートの新たな「顔」として、メンテナンスを含め大切に使用していきたいと思っております。それには、さらなる同窓会会員のご支援が必要となります。これまでの募金活動においては、必ずしも多くの同窓会会員のご協力をいただいているとは言えない状況であります。寄付率をみましても9%台に留まっており、何とか20%台の寄付率を目指すべく、100周年記念グッズの企画・販売を行うこととしました。具体的には、記念切手や懐中時計等、鋭意企画しております。

北海道大学医学部創立100周年を迎える大切な節目にあたり、同窓会は更なる母校の発展に貢献できるよう、その「組織力」を高めるため尽力したいと考えております。あわせて会員の皆様により一層のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。



# 医学部創立100周年記念事業の成功に向けて 一百年記念館の概要

医学部長 吉岡 充弘(60期)

医学部は新しい元号となる来年、2019年に創立100周年を迎えます。これを機に記念事業を実施することとなり、本新聞の第152号においてその概要を記載いたしました。その事業の柱となるのが「百年記念館」の建築と「研究教育基金」の設立です。なかでも医学部と同窓会がともに使用する「百年記念館」について、その平面図等を第156号ですでに紹介いたしました。北海道大学メインストリートに面する建物であることから、北海道大学の新たな「顔」とすべく、医学部百年記念館小委員会と北海道大学のサステイナブルキャンパスマネジメント本部との度重なる協議を経て、写真に示します建物のコンセプトが決定いたしました。本コンセプト策定には、工学研究院修士課程の学生諸君の協力を得ました。

具体的には、5つの学生グループによるプレゼンテーションおよびコンペティションにより、決定いたしました。その経緯ですが、大正14年に創刊された「雑誌フラテ」や医学部創立75周年記念誌および90周年記念誌を文献として、医学部100年の歴史を建物の変遷という

視点から分析し、北海道大学におけるこれまでの医学部建築物の特徴を説明されました。その後、各グループが1/50の模型を用いて、各々のコンセプトをアピールしました。第一次審査では、そのうち2つの案が採用され、小委員会の追加要望等を反映した修正案を作成

してもらったこととしました。

5月17日に最終審査会が行われ、木造の建築のコンセプトが採用となりました。活動の起点となるメインストリートに面した象徴的な吹き抜け空間、その吹き抜け空間を介した会議室や多目的のスペース、そして使い方に合わせて

可変するエントランス～ホワイエの通り抜けスペースを備え、同期会、講演会、立食パーティーなどあらゆる同窓会活動に対応可能な建物となります。詳細につきましては次号の本新聞で披露できる見込みです。



百年記念館イメージ図 南側より建物正面を望む



2階ホール



1階エントランス

## 北海道大学医学部創立100周年記念事業募金へのご協力をお願い

北海道大学医学部は、来る2019年（平成31年）に創立100周年を迎えるにあたり、北海道大学医学部百年記念館の建設を柱とするいくつかの記念事業を計画しております。

同窓会の皆様をはじめとする関係各位におかれましては本事業の趣旨をご理解いただき、格別のご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

ご寄附いただいた皆様には、北海道大学医学部の教育研究にご貢献いただいたことを末永く記録に留めるため、

金額に応じた銘板にご芳名を刻印し、北海道大学百年記念館へ掲示させていただきます。予定です。

募金要綱につきましては、「北海道大学医学部創立100周年記念事業基金募金趣意書」に記載しております。

趣意書につきましては、以下の方法で取得いただけます。

- ①ウェブサイトからのダウンロード  
北海道大学医学部創立100周年記念事業ウェブサイト  
(<http://www.med.hokudai.ac.jp/100th/>)

からダウンロードいただけます。

- ②メールまたはお電話によるご請求

医学系事務部総務課庶務担当

(E-mail: [shomu@med.hokudai.ac.jp](mailto:shomu@med.hokudai.ac.jp))

電話：011-706-5085)

までご連絡ください。趣意書を郵送にてお送りいたします。

また、クレジットカード決済によるご寄附のお申し込みについては、北大フロンティア基金ホームページ「寄附申し込みフォーム」からお手続きいただけます。

(<https://www.hokudai.ac.jp/fund/projects/detail.html#fund10>)

北海道大学医学部創立100周年記念事業実行委員会

募金活動小委員会委員長 吉岡 充弘

(問い合わせ先)

北海道大学医学系事務部総務課庶務担当

TEL/FAX：011-706-5085/011-717-5286

E-mail: [shomu@med.hokudai.ac.jp](mailto:shomu@med.hokudai.ac.jp)

### 北海道大学医学部百年記念館に掲示する銘板の種類

種別	寄附総額		銘板
	個人	法人・団体	
フラテダイヤモンド功労賞	1,000万円以上	3,000万円以上	ゴールド(大サイズ)
フラテゴールド功労賞	500万円以上	1,000万円以上	ゴールド
フラテシルバー功労賞	100万円以上	500万円以上	シルバー
フラテブロンズ功労賞	20万円以上	100万円以上	ブロンズ

### 寄附金納入状況

2018年7月31日現在

寄附金合計		292,270,095円
○教員	163件	35,770,000円
○医学部卒業生	392件	124,411,459円
○病院・企業等	81件	96,985,000円
○その他(講座等)	2件	17,803,636円
○その他(個人・団体)	60件	17,300,000円

同窓会卒業期別寄附状況

2018年7月31日現在

卒業期	全体数	個人		同期会 件数	寄附金額 (単位:円)
		寄附者数	寄附率		
18期	1	0	0%	0	0
19期	1	1	100%	0	100,000
20期	4	0	0%	0	0
21期	2	0	0%	0	0
22期	5	0	0%	0	0
23期	8	1	13%	0	200,000
24期	7	1	14%	0	1,000,000
25期	18	2	11%	1	558,430
26期	8	0	0%	0	0
27期	12	3	25%	0	620,000
28期	25	6	24%	0	2,500,000
29期	22	6	27%	0	510,000
30期	42	7	17%	0	1,120,000
31期	27	1	4%	1	645,029
32期	32	4	13%	0	320,000
33期	40	7	18%	0	3,500,000
34期	46	5	11%	0	950,000
35期	50	12	24%	0	8,700,000
36期	51	8	16%	0	2,750,000
37期	61	9	15%	0	2,800,000
38期	58	8	14%	0	920,000
39期	56	12	21%	0	3,000,000
40期	53	14	26%	0	5,502,000
41期	67	25	37%	1	15,050,000
42期	66	47	71%	1	5,245,000
43期	53	11	21%	0	8,040,000
44期	79	16	20%	0	6,760,000
45期	63	8	13%	0	1,310,000
46期	80	35	44%	11	6,050,000
47期	78	6	8%	0	5,700,000
48期	75	14	19%	0	18,393,636
49期	94	5	5%	0	830,000

卒業期	全体数	個人		同期会 件数	寄附金額 (単位:円)
		寄附者数	寄附率		
50期	89	6	7%	0	4,700,000
51期	101	7	7%	0	1,500,000
52期	86	6	7%	0	2,000,000
53期	80	7	9%	0	1,650,000
54期	103	9	9%	0	2,310,000
55期	109	11	10%	0	8,140,000
56期	105	12	11%	0	2,960,000
57期	124	11	9%	0	2,500,000
58期	98	6	6%	0	1,600,000
59期	124	7	6%	0	1,070,000
60期	116	29	25%	0	5,600,000
61期	100	8	8%	0	1,870,000
62期	115	4	3%	0	710,000
63期	104	4	4%	0	620,000
64期	113	6	5%	0	1,450,000
65期	117	8	7%	0	830,000
66期	115	14	12%	0	2,250,000
67期	106	9	8%	0	1,910,000
68期	101	7	7%	0	10,620,000
69期	105	7	7%	0	1,340,000
70期	96	4	4%	0	560,000
71期	91	5	5%	0	910,000
72期	80	8	10%	0	872,000
73期	82	6	7%	0	800,000
74期	84	5	6%	0	510,000
75期	81	6	7%	0	810,000
76期	78	5	6%	0	610,000
77期	64	1	2%	0	50,000
78期	71	9	13%	0	1,100,000
79期	84	7	8%	0	750,000
80期	87	2	2%	0	300,000
81期	62	5	8%	0	800,000

卒業期	全体数	個人		同期会 件数	寄附金額 (単位:円)
		寄附者数	寄附率		
82期	66	1	2%	0	100,000
83期	67	4	6%	0	279,000
84期	67	6	9%	0	480,000
85期	68	1	1%	0	50,000
86期	64	0	0%	0	0
87期	59	0	0%	0	0
88期	59	1	2%	0	50,000
89期	81	1	1%	0	50,000
90期	71	0	0%	0	0
91期	96	0	0%	0	0
92期	83	1	1%	0	10,000
93期	81	0	0%	0	0
会員(2)	149	22	15%	0	11,300,000
専1	1	0	0%	0	0
専2	2	0	0%	0	0
専3	3	0	0%	0	0
専4	3	1	33%	0	120,000
専5	16	3	19%	0	920,000
専6日	26	2	8%	0	300,000
専6新	5	0	0%	0	0
専7日	29	1	3%	0	100,000
専7新	16	1	6%	0	1,000,000
権太	1	0	0%	0	0
計	5,468	560	10.2%	15	181,535,095

〈参考〉

医学部創立90周年における同窓会からの寄附状況(2010年3月末)

全体数	寄附者数	寄附率
6,272	1,656	26.4%

※2018年7月31日現在まとめ ※全体数(住所判明者): 故人は除く/海外在住者除く(平成29年度同窓会データより) ※法人(代表者が同窓生)は除く

新世紀の医学に向けて (33)

臨床研究中核病院の承認と今後の展望

北海道大学病院(以下、本院)は、平成30年3月23日に医療法に基づく臨床研究中核病院として承認された。本稿では、臨床研究中核病院とは何かについて概説すると共に、この承認がもたらす意義と今後の展望について述べる。

臨床研究中核病院とは、日本発の革新的医薬品、医療機器等の開発を推進するため、国際水準の臨床研究等の中心的役割を担う病院として、厚生労働大臣が社会保障審議会の意見を聴いた上で承認するものである。これまで我が国における医療技術開発に関する拠点として、文部科学省の橋渡し研究支援拠点や厚生労働省の早期探索的臨床試験拠点などがあるが、これらは事業的な拠点であり、当該事業の終了と共に消滅する。一方、臨床研究中核病院は医療法という法律に基づいて承認されるものであり、特定機能病院のように社会制度上、継続的な存在として位置付けられ、従来からの事業的拠点との違いは大きい。本制度開始から3年経過しているが、臨床研究中核病院として承認されているのは本院を含めて国立大学病院や国立がん研究センター病院などの12施設のみである。

このように社会的意義の高い制度の

ため、その承認には国が厳しい要件を制定し、厳格な審査が実施される。承認要件は、①能力要件、②施設要件、③人員要件の3つが規定され、更に能力要件には「実施体制」と「実績」の基準がある。実施体制は、病院長を中心とした臨床研究の厳密な管理体制のほか、「臨床研究支援」「倫理審査」など7項目の体制整備が求められる。実績としては、特定臨床研究実施数、論文数、他の医療機関への支援数、研究者等への研修会開催数などがあり、それぞれ高いレベルの値が要求される。施設要件は診療科や病床数などであり、特定機能病院であればクリアできる。人員要件は臨床研究支援・管理部門に所属する人員数であり、臨床研究コーディネーターやデータマネージャー、生物統計家、薬事審査機関経験者などがあるが、これらは専従であることが必須で、一朝一夕には確保できない数値である。

本院では、従来から臨床研究や橋渡し研究に関する支援部門として臨床研究開発センター、管理部門として臨床研究監理部を置いて体制を整備すると共に必要な人員を確保してきた。実績要件として、医師主導治験数や他の医療機関支援数、研修会開催数はクリア

していたが、論文数が不足していた。この論文は特定臨床研究(治験または介入・侵襲を伴う医薬品等の評価を行う臨床試験)に関することが条件であり、厚生労働省は論文そのもののほか、研究実施計画書やUMIN登録内容などを厳しく査定するため、基準数の45編の確保に難渋した。本院の承認がやや遅れた原因はこの論文数の確保に時間を要したためであった。

では、臨床研究中核病院には、承認された本院あるいは北海道大学(以下、本学)にとってどのような意義があるのだろうか。まず、経費面であるが、臨床研究中核病院に対する国からの直接的な補助金等は存在しない。一方で厚生労働省は臨床研究に関する整備・振興事業費を確保し、その一部を臨床研究中核病院に割り当てている。例えば、今年度は「医療技術実用化総合促進事業」として各病院に1.5億円程度の事業費が配分されているほか、臨床研究中核病院でなければ申請できない事業もある。また、研究者による研究費申請においても臨床研究中核病院機能を活用することを前提とした公募があるなど、「収入」となり得る政策的な研究事業が複数存在する。

経費以外に目を向けても、臨床研究中核病院であるが故に実施できる事業がある。例えば、「がんゲノム医療中核拠点病院」である。急速に発展するがんゲノム医療を推進する国の政策であるが、その公募基準はがんゲノム診療体制の他、臨床研究中核病院でなければ整備できない条件が入っている。その結果、がんゲノム医療中核拠点に採択された機関は本院を含め全て臨床研究中核病院であった。

以上、臨床研究中核病院の概要や承認までの経緯、さらにその機能について述べたが、最後に今後の展望について触れておく。上述の通り、臨床研究中核病院は法に基づいた制度であり、公的であると共に継続的な存在である。そのため、厚生労働省を中心とした国の医療行政の中で、臨床研究のみならず医療技術開発分野において重要な役割を担わせることが想定され、今後、がんゲノム医療中核拠点のように臨床研究中核病院のみ実施可能となる研究や事業が増えていくであろう。従って、臨床研究中核病院であることの意義は非常に大きく、その機能を維持発展させることが本院のみならず本学全体にとって極めて重要である。

北海道大学病院  
臨床研究開発センター  
センター長/教授  
佐藤 典宏 (61期)



# 「海外で活躍する同窓生」

## 「WHO在勤15年 - マニラ、リヨン、ジュネーブ」

こじま かずのぶ  
小島 和暢(67期)



北大医学部も節目となる100期生を迎え、大変感慨深いですが、同窓の先生方におかれましては益々ご活躍のことと思います。海外で一体何をしているのか、ご報告申し上げよう依頼されましたので、寄稿させていただきます。

SARSが大流行した2003年、それまで長年お世話になりました札幌医大の衛生学教室からWHO(世界保健機関)に奉職し、15年になりました。初めはマニラにあるWPRO(西太平洋地域事務局)にてポリオと麻疹の仕事をしていたのですが、2007年にリヨン、さらに2010年にジュネーブにある本部に転勤し、今日に至っています。

WHOは日本を含む、世界194の加盟国をもつ国連の専門機関です。学生時代から興味と関心のあった国際保健、ことWHOに長年勤務しているのは、幸運なことだと思います。どのような分野もそうかもしれませんが、大変競争が厳しく、常に変革の荒波にさらされています。仕事のほとんどは国連の公用語の一つである英語ですが、フランス語圏の影響も強く、多様な文化的、社会的、言語的な背景を持ったスタッフ、また各国政府や諸機関と常に良好な関係を保つ必要があります。あちこち出張し、多くの人と一緒に仕事をす

る機会がありますが、素早く相手の特徴と意図を読み取り、柔軟に対応する術を学んだように思います。そんな次第で気苦労は多いですが、反面、仕事上、心から素晴らしい方々と知り合うこともあり、中には生涯の師、友と思われる方と巡りあうこともありました。

WHOは本部の他に、6つの地域事務局が全世界をカバーし、149のフィールドオフィスがあり、全部で7,000人ほどの正職員などが勤務しています。邦人職員は30数名程度で望ましいとされる数を大きく下回っています。WHOの仕事は、アウトブレイクや予防接種など感染症対策もさることながら、国際疾病分類(ICD)、各種医薬品、また食品、環境など多岐に渡り、それぞれ専門の部署が存在します。アフリカから初めて選出された事務局長のリーダーシップの下、「三つの十億」即ち医療へのアクセス、アウトブレイクからの保護、健康状態の増進を、それぞれ十億人を対象とする高い目標を成長戦略に掲げています。

さて、現在、国際保健規則(IHR)に関する部署で、WHOにおけるバイオセーフティー、バイオセキュリティおよび感染性物質の輸送安全の責任者を務めております。中でも力を入れている

のが、WHOバイオセーフティマニュアル(LBM)の改訂です。これまで、基本的に病原体を4つのリスク(ハザード)グループに分け、それを4つのバイオセーフティレベル(BSL)に合わせる、という考えが主流でした。それでは、例えばエボラなどウイルス性出血熱の検体は最高レベルであるBSL-4高度封じ込め施設でしか扱えないのでしょうか?日本でも常時BSL-4として稼働している施設は現状ではありません。このような病原体によるアウトブレイクを経験するアフリカ諸国にそのような施設は、費用、技術的に現実的ではありません。しかし、現実にはそのような疾患の診断と研究の必要は確実にあります。そこで、あれこれ思案の末、エビデンスとリスクに基づいた考えを、この改定のコンセプトとして大胆に打ち出しました。確かに個々の病原体のもつ病原性や感染性は看過できません。しかし、実験者および環境に対するリスクは、具体的な操作、病原体の量、感染経路などによって大きく異なります。例えば同じ病原体でも少量の試料からPCRを行うのと大量の培養を行うのでは、自ずとリスクが異なります。画一ではなく、個々のリスクアセスメントに基づいて、過不足の無い施設で行うこと

が望ましいと思われます。詳しくは、先日Science誌にペーパーが掲載されましたのでご興味をお持ちの方はご覧下さい(Science 20 Apr 2018: Vol. 360, Issue 6386, pp. 260-262)。日本を含む各国から問い合わせを頂きましたが、欧州連合(EU)からの依頼にも応じ、このような趣旨で既存の法規を見直すよう、働きかけました。さらに、何らかの規制の枠組みがない多くの国々のために、WHOのモデルレギュレーションも構築し、現在フィールドで実証中です。

他には、今も世界に二箇所残る天然痘保有施設の査察など、大変センシティブな仕事もしています。生物兵器禁止条約(BWC)にも関係し、国際政治の機微に触れることもあります。狭義の「医学」から逸脱しているかもしれませんが、北大で学んだこと、その頃の初志を胸に、これからも微力を尽くしたいと思っています。



2017年末に、国連のジュネーブ事務局で開かれた生物兵器禁止条約(BWC)に関するワークショップに招かれて、講演した際の写真。中央で筆者の隣に座っているのがアメリカのウッド軍縮大使です。

## MD-PhDコースについて



神経薬理学教室  
(博士課程1年)  
ささきもり ひとみ  
笹森 瞳  
(94期)

私は平成30年3月に、北海道大学医学部を卒業し、同時に医師免許を取得しました。同年4月より、MD-PhDコースを利用して北海道大学大学院医学院に進学し、吉岡充弘教授が主宰する神経薬理学教室で、一流の研究者になるためのトレーニングの最中です。

北海道大学医学部のMD-PhDコースでは、医学部の同期と一緒にカリキュラムで勉強しながら、6年次より大学院にて講義を履修し、研究に参加します。その後、医学部卒業と同時に大学院に進学して、短縮修了を目指します。このコースの目的は、「早期に研究にふれ、医学・医療の急速な進歩と社会情勢の変化に対応できる若手研究者(基礎医学分野)を養成すること」となっています。

私は医学部2年次より長期休暇等を利用して、神経薬理学教室の指導教官のサポートのもとで研究を進める中で、その面白さに魅せられ、同時に、自分が研究を行う者として未熟であることを痛感し、研究者として成長するための時間を得るためにこのコースに入りました。このコースでは、医師免許は医学部同期と同時に取得した上で、充実した経済援助・研究支援体制のもと、

安心してのびのびと研究に専念できます。私は、このセーフティネットの恩恵を存分に享受して、自分の持ちうる全ての時間と体力を注ぎ込み、困難で挑戦的で最高に魅力的な研究テーマに取り組んでいます。良い仕事をするには、時にプレッシャーも正の作用を持つかもしれませんが、私は、セーフティネットがある方が、より高く美しいジャンプが跳べると確信しています。このかけがえのない3年間を全力で駆け抜けることが楽しみでなりません。

このように、北海道大学医学部には、素晴らしいMD-PhDコースがあります。このコースを選択しなくても、医学部生の中に基礎研究に触れることには、たくさんのメリットがあります。一番のメリットは、基礎研究に親しみつつ臨床医学を勉強することで、標準治療—科学的根拠に基づいた観点で現在利用できる最良の治療—ができるまでに積み上げられてきた基礎研究を、深く感動しながら味わえることです。

北海道大学医学部のMD-PhDコース設立・運営に尽力してくださっている先生方・関係者の皆様への最大限の感謝を胸に、精進してまいります。同窓会の先生方には今後ともご指導・ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

## 第57回北海道大学医学展について



第57回医学展  
実行委員長  
goo けんいち  
(97期)

第57回北海道大学医学展は6月2日および3日に開催しました。今年度は無事晴天に恵まれ、2日間合わせて約5000人の市民の皆様にご来場いただき、大盛況となりました。開催回数も今年で57回を迎え、過去56回分の意志と歴史を受け継ぎ、その企画を時代に合わせて変えつつも、市民と医学・医学生との交流、また医学展をきっかけとした市民の皆様への健康に対する意識の変化をその開催意義と考え、医学部学友会のご支援のもとで北大祭期間中に開催されました。

今年度医学展のテーマは「癒し〜医やし〜」でした。医学生の多彩な医療知識に触れている生活実態をご来場の皆様にご提供したい気持ちを込めて、このテーマに設定しました。

医学展の開催趣旨とテーマを踏まえ、色んな企画が用意されました。医学展主導の企画5つ、外部団体企画1つ、医学部有志団体による模擬店10店がございました。

医学展主導の企画としましては、エコー・心電図検査体験ができる心検査体験、肺活量測定体験、血管年齢・骨密度測定体験ができる「検査体験企画」、

民間救急車見学会、献血、心肺蘇生講習会ができる「救急体験企画」、車いす体験、弱視・視覚障害体験、妊婦体験ができる「ハンディキャップ体験企画」、お子様も楽しめる医学体験や今年度からの新企画「糸結び体験」がある「科学体験企画」、上級生による健康相談などできる「いがくの窓口」の計5企画を実施しました。また、今年度は医学部公認サークルの国際医療協力勉強会なまらambitiouslyに協力していただき、札幌英語医療通訳グループSEMIの寺尾恵先生による講演会を開催しました。どの企画にも老若男女多くの方にお越しいただき、学生スタッフにも積極的に質問をされるなど来場者の皆様の医学展への関心の高さがうかがうことができました。

当日においても多くの学生スタッフの協力の元、医学展を円滑に運営することができ、特に大きな問題はなく無事に終わられました。また、学生と市民の皆様との交流も多くみられ、医学展としての開催意義は十分に達成されたものと感じております。

今年度の医学展開催に際しましてご支援・ご協力くださいました大学各局、企業、法人の皆様はこの場をお借りしまして、重ねて御礼申し上げます。

なお、医学展の企画詳細に関しましては北海道大学医学展ホームページ(<http://hokudai-igakuten.org>)をご覧ください。

# フラテ105号発行のお知らせ

医学部フラテ編集部

同窓会新聞をご覧の皆様、いつも学友会誌フラテをご購読いただき、誠にありがとうございます。皆様の暖かいご支援により、今春発行の104号も大変ご好評をいただきました。

さて我々フラテ編集部では来年3月上旬発行予定のフラテ105号の発行準備を進めております。購読をご希望の方は、同封の振込用紙にてお支払いをお願い致します。注文および支払方法を、郵便振込みによる前払いとさせていただきますことにご理解をお願い致します。

また、104号以前のフラテ購入をご希望の方は、105号をお申し込みの際に、振込用紙にその旨をお書き添え

下さい。別途、送らせていただきます。なお、フラテの申し込みは同窓会新聞に同封の払込用紙(10月申し込み分と1月申し込み分の2回)のほか、104号巻末の払込用紙においても受け付けております。すでに104号巻末の払込用紙にて申し込まれた方は今回申し込む必要はございません。

また、104号を申し込まれた方で、まだお手元に届いていない方もどうぞフラテ編集部までご一報ください。

### <105号の主な内容(予定)>

- ・特集記事  
「国試の現状と北大の取り組み(仮)」
- 「北大医学部 国際化を考える～学生

- 目線での今までとこれから～(仮)
- ・フラテ各地に行く～新潟編～
- ・教室便り(医学部の各教室のご紹介)
- ・新任教授 インタビュー
- ・みどりのベンチ インタビュー
- ・フラテ茶苑(先生方の御寄稿文)
- ・学生の広場(学生の寄稿文) など

- 内容:自由(学生時代のお話、専門分野のお話、趣味のお話など)
- 形式・字数:自由
- 〆切:2018年11月末日
- ※期日以降のご寄稿に関しましては、次号(106号)に掲載させていただきます。

### 【フラテ茶苑 寄稿者募集】

フラテ茶苑では、ご卒業の先生方からの御寄稿文を掲載しております。学生も多く読んでおり、学年を超えた交流の場となっております。原稿執筆を希望される先生は、ぜひフラテ編集部まで原稿をお送りください。また、写真や図などございましたら、そちらも併せてお送りください。今年度も沢山のご寄稿をお待ちしております。

※フラテ茶苑へのご寄稿の他、フラテ編集部へのご連絡・ご照会は下記宛にお寄せくださるよう、お願い申し上げます。

**<お問い合わせ先>**  
**フラテ編集部**  
 TEL/FAX 011-736-1444(留守電あります)  
 E-mail:frate.med@gmail.com  
 〒060-8638  
 札幌市北区北15条西7丁目  
 北海道大学医学部内 フラテ編集部

## 告知板

### <教授就任挨拶>

東京慈恵会医科大学 心臓外科学講座 主任教授



くに はら たかし  
國原 孝(67期)

平成三十年六月一日付で東京慈恵会医科大学心臓外科学講座の四代目主任教授に就任いたしました。心臓外科と

いう診療科として日本で一番古いスタートを切り、偉大なる諸先輩方が引き継いでこられた伝統ある教室を主宰するのは、もとより浅学の身としてはその重責に身が引き締まる思いです。これまでご指導、ご支援いただいた北海道大学医学部同窓会ならびに同第二外科・循環器外科同門会の諸先生方に

厚く感謝するとともに、今後いろいろな面で連携を深めてお互いの発展に尽力する所存ですので、より一層のご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願ひ申し上げます。

### <学内・院内人事異動>

#### <辞職>

平成30年7月31日 橘 剛(72期)  
循環器・呼吸器外科講師  
(神奈川県立こども医療センター)

#### <採用>

平成30年7月1日 山田 勝久(81期)  
脊椎・脊髄先端医学分野 特任助教  
平成30年8月1日 坂本 圭太(83期)  
放射線診断科 特任助教

## 事務局からお知らせ

### ご寄付のお願い

同窓会では、企業、団体、個人の皆様に、同窓会事業支援のためのご寄付をお願いしております。

寄付者のご了承を得て同窓会新聞にご紹介し、10万円以上のご寄付には、楯または額による感謝状を贈呈させていただきます。

いただきます。ご寄付につきましては、同窓会事務局にご連絡ください。  
電話 : 011-706-5007  
E-mail : furate@med.hokudai.ac.jp

### 会員名簿の処分にお困りの方へ

会員名簿には個人情報に掲載されていますので、ご不要になった名簿は適切な処分をお願いいたします。ご自身で処分が困難な方は、郵便又は宅配便により同窓会事務局へ送ってください。  
**なお、恐縮ですが送料は各自でご負担**

**願います。**  
○送付先  
〒060-8638 札幌市北区北15条西7丁目  
北大医学部内  
北海道大学医学部同窓会事務局

### 同窓会費について

#### ○会費納入のお願い

会員の皆様には、会費納入にご協力いただきありがとうございます。同窓会の事業は会員の皆様の会費によって運営されています。今後も意義ある同窓会活動を継続していくために、会費納入にご理解とご協力をお願い申し上げます。

#### ○会費納入は次のいずれかの方法によります

①口座振替、②コンビニ納入、③銀行振込  
※詳しくは同窓会新聞に同封される払込票をご覧ください。

#### ○会費未納者と刊行物の送付

・未納会費が2年を超える会員には、会員名簿(同窓会誌)をお送りしません。  
・納入が9月30日を過ぎると、入金確認及び印刷部数確定の都合によりお送りすることができません。

#### ○会費免除者と刊行物の送付

・会則により、卒業後55年を経過した会員の会費は、翌年度から免除となります。  
・38期生は平成30年度から、39期生は平成31年度の会費から免除となりますが、免除前に2年を超える未納会費があると、会員名簿(同窓会誌)をお送りしません。

### ドクター総合補償制度のご案内

同窓会では「ドクター総合補償制度」を創設し、現在、500名近い会員が加入して、ご好評をいただいています。

本制度には「医師賠償責任保険(勤務医向け)」、「医療・がん保険」、「所得補償保険」があり、団体割引が適用さ

れるので割安な保険料で加入することができます。

**年度途中でも加入出来ます**ので、同窓会事務局にお問い合わせください。  
電話 : 011-706-5007  
E-mail : furate@med.hokudai.ac.jp

## 2019年北海道大学医学部、北海道大学病院、北海道大学医学部同窓会合同新年会および北海道大学医学部創立100周年記念事業後援会総会のご案内

今年の新年会は約100名の同窓生および関係者が集まり盛会となりました。来年も以下のとおり開催しますので、医学部同窓生の皆様はふるってご参加ください。

日時: 2019年1月10日(木) 午後6時から  
場所: 札幌グランドホテル 会費: 10,000円(予定)  
対象: 北海道大学医学部同窓会会員、医学部教員、病院教員など幅広い関係者

【申し込み方法】参加希望の方は、①氏名(ふりがな)、②卒業期、③住所、④電話番号を明記の上、**電子メール、ハガキ、FAXにて同窓会事務局宛にご連絡をお願いいたします。**

なお、北大教員及び顧問、参与、幹事の方につきましては、後日、紙媒体で別途出欠をお伺いいたします。

【出欠締め切り】2018年11月16日(金)

#### 【連絡先】(北大教員、及び顧問・参与・幹事の方を除く)

〒060-8638  
札幌市北区北15条西7丁目  
北海道大学医学部同窓会事務局  
TEL&FAX: (011) 706-5007  
E-mail: furate@med.hokudai.ac.jp  
(発起人) 医学研究院長 吉岡充弘(60期)  
病院長 寶金清博(55期)  
同窓会会長 浅香正博(48期)  
(幹事長) 畠山鎮次(66期)

### 新刊書紹介



#### 「異常値の出るメカニズム(第7版)」

かわい ただし  
河合 忠(31期)監修  
医学書院  
¥6,480

現在の臨床現場では、臨床検査の重要性はますます高まってきている。臨床検査値を読むということは、単に基準範囲と比べて高い低いを判断することではない。その検査がどうい

う方法で測定されているか、検体の採取、保存は適切か、精度管理は十分になされているかの評価とともに、どのような病態で異常値が出るかの理解が必要である。そういう意味で、卒前、卒後の「臨床検査医学」の教育が重要なのである。

今回再版された『異常値の出るメカニズム 第7版』は、本学31期の大先輩であり、我が国の臨床検査医学の文字通りのパイオニアである河合忠先生が監修された名著である。名著であるが故に、1985年に第1版が刊行されて

以来これまで版を重ねて第7版となったわけで、当初からの基礎医学と臨床医学のエッセンスをつなげたわかりやすい解説というコンセプトに加えて、遺伝子検査などの最新の知見が加えられている。ぜひ、医学部の学生さん、研修医ならびに若手の臨床医の皆さんの手元においていただきたい一冊としてお勧めしたい。

我が国の臨床検査の世界では、遺伝子関連・染色体検査を含む検体検査の精度保証の重要性に関して、「医療法等の一部を改正する法律の一部の施行に

伴う関係省令の整備に関する省令案」が本年(平成30年)6月に公布され、本年末に施行される。これにより検体検査の精度の確保が法的にも求められることになり、医学部教育の中での「臨床検査医学」の重要性も増すものと考えられる。10年近く前に臨床検査医学講座が廃止され(国立大学では初)、検査教育が必ずしも十分ではない我が北大医学部での「臨床検査医学」教育のさらなる充実が求められる。

(48期 松野一彦)

## 北海道医学会からお知らせ

○北海道医学会ホームページURL  
北海道医学会のホームページは下記URLよりご覧ください。

<http://www.hokkaido-med-society.org>

### ○北海道医学会について

北海道医学会は北海道における医学の進展を図るため、大正12年に発足した学術団体です。北海道大学、札幌医科大学、旭川医科大学の医師、医学研究者及び本会の目的に賛同される方々には一般会員として、道内の主要医療機関には特別会員としてご参加いただいております。

### ○主な活動内容

- ・機関誌「北海道医学雑誌」の発行(5月、11月：平成30年は第93巻)
- ・学術集会「市民公開シンポジウム」の開催(10月下旬：昭和41年から

実施)

- ・若手研究者への「研究奨励賞」の授与(年3名以内に賞状及び副賞：昭和58年から実施)

### ○入会のご案内

本会に入会されていない同窓会員におかれましては、是非ご入会いただきますようご案内申し上げます。医療機関としてのご入会も歓迎します。

なお、会員には機関誌「北海道医学雑誌」を発行の都度お届けいたします。

入会方法、申込書は、本会ホームページ(コンテンツ：入会ご案内)より入手してください。

### ○「北海道医学雑誌」の原稿募集

- ・募集する原稿は、「原著論文」「症例報告」「総説」「速報」「学位論文」「学位論文の要旨」「BAY(Best Articles of

the Year)」「研究会抄録」「談話会抄録」等です。

- ・「教室だより」「海外だより」等、論文以外の投稿も歓迎します。
- ・投稿者は北海道医学会会員であることを原則とします。
- ・投稿規定は、本会ホームページ(コンテンツ：機関誌「北海道医学雑誌」)をご覧ください。



### ○「北海道医学会研究奨励賞」の公募

- ・応募資格は、応募の年に発行された「北海道医学雑誌」に掲載された論文

著者とし、共著の場合は筆頭著者とします。なお、応募する年度の末日において満40歳未満の本会会員であり、応募する年度までの年会費を完納していることが条件です。

- ・対象となる論文は、「原著論文」「学位論文」「BAY」とし、毎年12月に公募します。
- ・研究奨励賞の詳細、推薦書並びに交付申請書は、本会ホームページ(コンテンツ：研究奨励賞)より入手してください。
- ・受賞者には北海道医学雑誌に寄稿していただきます。

### ○お問い合わせ先

北海道医学会事務局

電話：011-706-5007

E-mail: digakkai@med.hokudai.ac.jp

### 同窓会費の納入は口座振替で

同窓会費の納入方法は、①口座振替、②コンビニ納入、③銀行振込のいずれかです。

**特に口座振替は、店頭へ出向く手間が省けます。また、納入忘れがないのでとても便利です。**

口座振替を希望する方は、事務局にお申し付けください。手続きに必要な「預金口座振替依頼書」をお送りします。ホームページからもダウンロード出来ます。必要事項を記入の上同窓会事務局へ送ってください。

電話：011-706-5007 E-mail: furate@med.hokudai.ac.jp

### 同窓会費納入のお願い

同窓会事業は会員の皆様から納入された会費によって運営されています。会費納入にご理解とご協力を切にお願い申し上げます。

### 過年度会費が2年を超える会費未納者と会員名簿の発送について

平成26年度より、**過年度会費が2年を超える会費未納者**には、会員名簿および同窓会誌の送付を停止することになっております。

前回の新聞ですでお知らせ済みですが、**過年度会費が2年を超える会員で、本年度の会員名簿の送付を希望される会員には、平成30年9月30日まで未納会費の納付をお願いしております。**期日以降に納付されましても、印刷部数確定のため、今年度の名簿をお届けすることはいたしかねますので、ご了承ください。

### ●ご注意ください

#### 【平成30年度会員名簿について】

平成30年9月30日を納付期限としております。

たとえ平成30年度以内(平成31年3月31日まで)に未納額を納付いただきましても、当年度発行の名簿をお届けすることはできません。

#### 【過年度分の名簿および会誌について】

後日、滞納分を納付されましても、個別発送はいたしません。

### ご逝去者

新聞160号発行以降、ご連絡いただいた方を掲載しております。

御逝去年月日	氏名	期	御逝去年月日	氏名	期
平成25年9月14日	逢坂 愛 児	31	5月	伊藤 裕 彦	48
平成28年10月10日	大庭 嘉 人	専旧6	5月1日	小松 信 正	20
12月30日	小 関 弥 平	専旧6	5月1日	藤井 野 睦	30
平成29年2月2日	加藤 行 男	専旧6	5月7日	藤野 雄 三	41
2月23日	石崎 忠 文	37	5月19日	森田 穰 務	43
4月7日	布村 東 三	28	5月25日	福島 清 三	30
9月8日	鈴木 克 男	38	5月26日	北 濱 恵	31
10月17日	鈴木 野 哲	専5	6月1日	小 泉 清	専旧6
11月15日	今 野 次 謙	29	6月3日	影 井 兼 泰	65
12月12日	安 野 守	36	6月4日	中 村 治 真	32
平成30年1月17日	新 田 晋 稔	32	6月4日	今 井 真 夫	54
2月3日	松中 武 文	25	6月26日	小 川 哲	33
2月7日	中 島 武 規	31	7月11日	古 屋 隆 夫	専旧6
2月11日	山 本 泰 雄	28	7月12日	都 香 純	専旧6
3月2日	中 根 幸 雄	33	7月12日	木 村 純 雄	56
4月6日	奥 幸 信	28	7月22日	若 盛 宗	26
			7月27日	竹 内 隆 雄	26
			8月1日	山 崎 英 雄	専5
			8月18日	安 田 耕 一郎	39
			9月1日	別 役 智 子	65
			9月5日	石 倉 豊 生	専7旧

下記の逝去会員の逝去日に誤りがありました。謹んでお詫びし、訂正いたします。新聞160号掲載 故池端隆先生(27期) 逝去年月日(正)平成30年4月2日

### 編集後記

今年は世界中が猛暑で地球環境が益々不安定な方向に向かっていると感じました。一方、北海道は過ごしやすい夏だったと思います(雨は多かったですが)。連日気温38度のニュースを見ているせいか、札幌で32度になっても「今日は暑いね」という言葉があまり聞かれなかったように思います。今年は北海道に住んでいて本当に良かったと感じました。以前、先輩が、30年後には温暖化で東京に人は住めなくなるかもしれない。札幌が首都になるかもしれないから、家と土地は手放さない方が良く冗談で言っていたことが、現実味を帯びてきている気がします。

(64期 南須原康行)

### 平成30年度同窓会員名簿について

本年度は、名簿発刊の年に当たっております。

前回の同窓会新聞でもお知らせいたしましたが「**会員登録情報変更届**」は、**平成30年9月28日(金)事務局必着分を持ちまして、締切とさせていただきます。**

期日以降の届出につきましては、可能な限り対応いたしますが、名簿の印刷には反映出来ない可能性がございます。申し訳ございませんが、ご了承くださいませよう、お願い申し上げます。

同窓会新聞は142号からHP上でご覧いただけます。アドレスは次の通りです。  
<http://hokudai-med-dousou.com/news/index.htm>

印刷所 **大日本印刷(株)**

〒065-0007 札幌市東区北7条東11丁目1番1号 代表(011)750-2205